4 先生・生徒がわくわくする楽しい教科書

現代的な諸課題を扱った豊富な教材

教科書全体を通して、**生徒が興味・関心をもち、授業設計に役立つ様々なトピック**を掲載しています。現代的な諸課題や伝統・文化、多様性などについて具体的な事例を紹介し、**多様な地理的事象に対する理解を深める**ことができるようにしました。

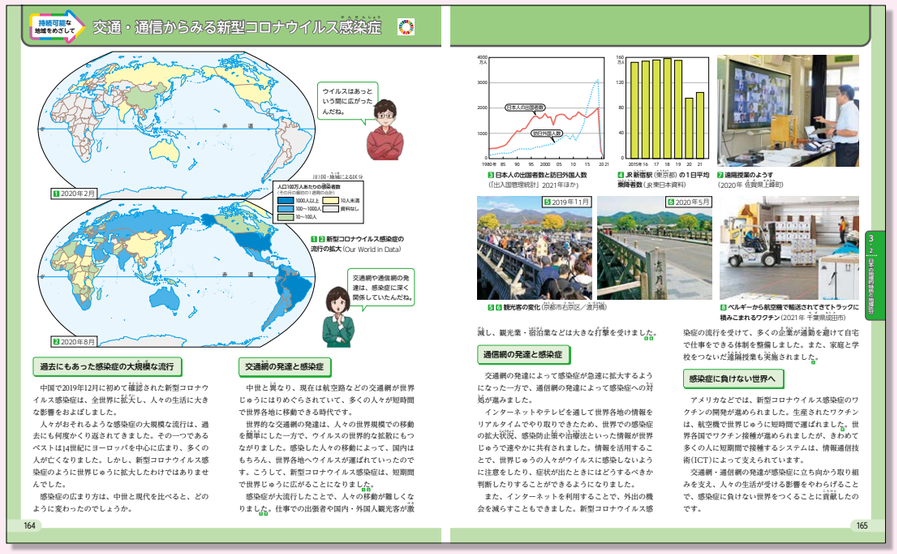
最新のトピックに関する教材

世界や日本で「今」起きている出来事を、地理的事象への理解を深める教材として活用できるよう、様々な具体事例を紹介しています。

新型コロナウイルス感染症

本文ページで適宜新型コロナウイルス感染症による影響について触れるとともに、交通・通信から新型コロナウイルス感染症について考えることができる特設ページを第3編第2章に設定しました。

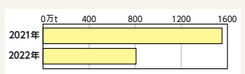
P.164-165



ロシアによるウクライナ侵攻

第2編第2章第2節（ヨーロッパ州）では、ロシアによるウクライナ侵攻についてのコラムを設定しています。また、資源・エネルギーの面からもロシアとヨーロッパ諸国の関係について取り上げています。

4 ウクライナ産の小麦の輸出（2022年 ウクライナ）



5 ウクライナの小麦の輸出の変化（MINISTRY OF AGRARIAN POLICY AND FOOD OF UKRAINE）

地理 +α ウクライナ問題でゆらぐヨーロッパ

ウクライナは、P.69 4 のようにソ連を構成していた国の一つで、ロシアと国境を接しています。豊かな穀倉地帯が広がっており、とうもろこしや大麦、小麦などの生産量が多く、世界に輸出しています。

第二次世界大戦後、アメリカや西ヨーロッパの国々と、ソ連や東ヨーロッパの国々は、それぞれ軍事的同盟をつくって対立してきました。1991年のソ連の分裂後も、アメリカを中心とする軍事的同盟（北大西洋条約機構（NATO））は存続し、東ヨーロッパの国々もNATOに加盟していきました。ロシアは、こういったうごきに反対していました。2022年に、ロシアがウクライナに侵攻し、はげしい戦闘が続きました。ロシアが侵攻した背景には、ウクライナがロシアから距離をおいて、西ヨーロッパの国々と関係を深めようとしたことがかかわっています。

ヨーロッパでは第二次世界大戦以降、国どうしが全面的に戦うことがなかったため、人々は大きな衝撃を受けました。ロシアのウクライナ侵攻を受けて、ヨーロッパの多くの国々はロシアに強く抗議しています。

2-2 ヨーロッパ州

P.75

様々な技術と人々の生活

ドローンによる配達の実証実験や、自動運転バス、垂直農法など、様々な最新技術を取り上げ、それらが人々の生活にどのような影響を与えているのか考えられるように工夫しています。

6 ドローンによる山間部への配達の実証実験（2023年 奈良県奈良市） 山間部での生活を便利にするための取り組みです。

巻頭2 ドローンによる配達の実証実験

1 垂直農法で栽培される牛の飼料（2021年 アメリカ／ユタ州）

P.94 垂直農法

2 商用化に向けて試験運転を重ねる自動運転バス（2022年 中国／シェンチェン）

P.50 自動運転バス

地理 +α ICTで交通問題を解決

自動車以外の交通手段で移動する場合、最寄りの鉄道駅やバス停から目的地までのあいだの移動が不便な場合があります。「ラストワンマイル問題」とよばれているこの問題を解決する方法として、アメリカの都市ではICTを活用した電動キックスケーターのシェアサービスが急速に広まっています。専用のアプリケーションによって、電動キックスケーターの位置情報を確認し、近くにあるものを使用して、使用後に自分が止めた場所を登録することで次の利用者が使えるようにします。

このしくみは人々の生活を便利にするだけでなく、環境への負担を減らすことにもつながります。アメリカだけでなく、SDGsへの取り組みに関心が高いヨーロッパでもこのしくみが広がっています。

6 電動キックスケーターで移動するようす（2022年 アメリカ／ネバダ州）

P.103 アプリケーションと連携した電動キックスケーター

SDGsに取り組むヨーロッパ

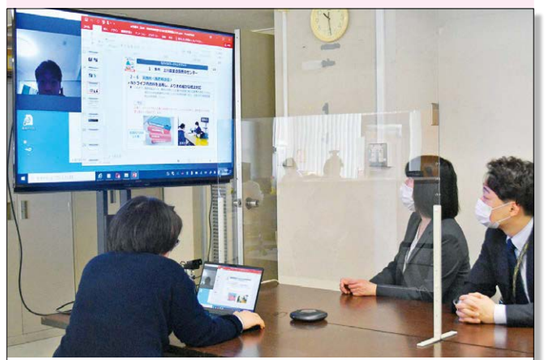
P.66

「欧州グリーン・ディール」の政策分野

①クリーン・エネルギー
エネルギーの生産と消費による二酸化炭素の排出量を減らす
②持続可能な産業
競争力と環境保全の両立をめざす
③エネルギー・資源効率的な建築および改修
エネルギーや資源の消費が少ない建物への移行
④持続可能でスマートなモビリティー
輸送の際の二酸化炭素の排出量を減らす
⑤生物多様性および生態系の保全
生物多様性、森林や海洋の保全に取り組む
⑥農場から食卓まで
自然への影響を抑えながら安全で高品質の食品を生産する
⑦汚染ゼロ
大気、水、土壌の汚染を防止する

コロナを経験した社会の変化

P.163



5 自宅でテレワークをしている人とのリモート会議のようす（2022年 札幌市中央区）

4 先生・生徒がわくわくする楽しい教科書

現代的な諸課題を扱った豊富な教材

多様性について考えることができる教材

コラムを多数設定し、多様な人々が共生している事例を取り上げています。様々な背景をもつ人々と共生しようとする態度を養うことができます。

多様性の尊重

世界の事例を取り上げ、日本と比較して考えを深められるようにしました。

P.125

地理 +α **性的少数者に配慮した社会へ**

4 **投票で過半数が同性婚に賛成したことを喜ぶ人々**（2017年 オーストラリア）

オーストラリアやニュージーランドでは、LGBTなどの性的少数者に配慮した社会づくりが進められています。ニュージーランドでは、2013年に同性婚を認める法案が成立しました。オーストラリアでも、2017年に同性婚について任意参加の国民投票が行われました。約80%の国民が投票に参加し、過半数が同性婚に賛成したことを受けて、同性婚が合法化されました。4

世界・日本の多文化共生

身近にある多文化共生の例を知ることで、多文化共生社会の重要性を認識できるようにし、他国を尊重し、様々な文化的背景をもつ人々と共生しようとする態度を養えるようにしました。

10 **コリアタウン**（2022年 大阪市生野区）

3-3 近畿地方

関西国際空港は、国際線の航空機の発着などを行う、西日本から世界への玄関口です。大阪湾の埋立地に建設され、鉄道や高速道路で大阪市の都心部と結ばれています。

大阪市生野区には、韓国・朝鮮の料理店や商店がならぶコリアタウン10があります。かつて、日本の植民地政策のもとで移住してきた人々が集まって生まれた街です。現在では整備が進み、観光客でにぎわっています。コリアタウンの歴史を学ぼうと、フィールドワークでおとずれる人や修学旅行生なども増加しています。

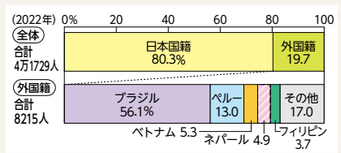
P.211

地理 +α **多文化共生社会をめざして**

大泉町（群馬県）では、ブラジルなどから来た多くの日系人が働いています。人口に占める外国人の割合は約2割で、ポルトガル語で書かれた看板5やブラジルの食料品を売る店4がたくさんあります。町では、日本の制度・文化の紹介をしたり、ポルトガル語版の広報紙を発行したりして、異なる文化や考え方をもつ人々とともに生活する**多文化共生社会**をつくる取り組みを進めています。

▶P.112 ▶P.300

4 **ブラジルの食料品をあつかうスーパーマーケット**（2019年 群馬県大泉町）



5 **大泉町の人口**（「大泉町統計」2022年）

P.245

伝統・文化を捉えることができる教材

世界や日本における伝統・文化の現状と、それを守り、未来へ継承していく人々の取り組みについて、随所に写真、コラムなどを設定しました。

アイヌの人々の文化

アイヌの人々について、歴史的な背景を解説するとともに、歴史や文化の復興のうごきについて記載しています。
また、教科書QRコンテンツでアイヌの人々について知ることができるWebサイトへのリンクを多数ご案内しています。

大きな写真によって、伝統的な儀式や衣服の様子を読み取ることができます。

P.278

高千穂郷・椎葉山地域の伝統的農業

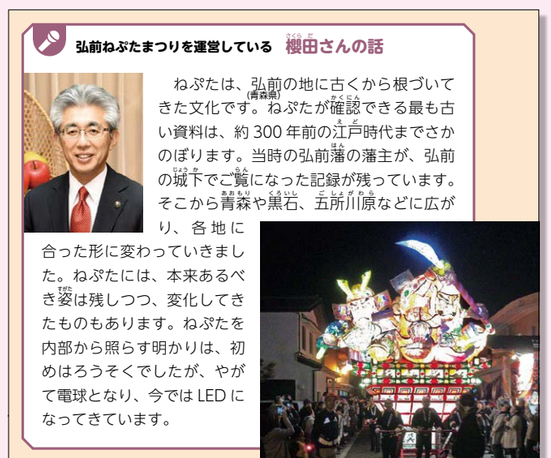
注目！ 伝統・文化を継承する人々の取り組みを取り上げています。

3-3 九州地方

7 **高千穂郷・椎葉山地域で行われる焼畑農業の種まき**（2021年 宮崎県椎葉村）

P.179

弘前ねぷたまつり



P.258

4 先生・生徒がわくわくする楽しい教科書

現代的な諸課題を扱った豊富な教材

SDGsについて考えられる教材

SDGsについて考えられる教材を随所に設定し、SDGsと特に関連する箇所にはマークを付しています。

住み続けられるまちづくり

P.263

地理 +α **新しいまち「野蒜ケ丘」**

東松島市野蒜地区は、石巻湾に面した地区です。東日本大震災の津波で、住宅などの多くの建物や鉄道が大きな被害を受けました。そこで、集落の中心部を、鉄道とともに丘陵地の高台に移転させました。震災から5年以上たった2016年に新しい市街地である「野蒜ケ丘」の整備が完了し、2017年には「野蒜ケ丘まちびらきまつり」が開催されました。野蒜ケ丘には、野蒜地区で被災した人を中心に、各地から人々が移り住んでいます。

東松島市は、計画の早い段階から野蒜地区の人々と話し合いを重ね、住民と行政が協力して新しいまちづくりを進めました。そして、整備された野蒜ケ丘では、住民による自治会活動が始まりました。自治会やまちづくり協議会が中心になって、祭りやコンサートなど、住民どうしが交流できるさまざまなイベントが行われています。

地域活性化・技術の伝承

P.215

地理 +α **林業の歴史と未来**

古くから都市が発展した近畿地方では、大量の木材が必要になり、林業が発展しました。紀伊山地の吉野地方や尾鷲では、杉やひのきを植林して、間伐をくり返す林業が盛んです。しかし、安い輸入木材との競争や、建築様式の変化などで木材価格の低迷が続き、産業の活力が失われつつあることが課題です。

黒滝村では、生産した杉やひのきの加工を、村に任命された「地域おこし協力隊」が協力して行っています。木材を加工、販売するだけでなく、林業や木材の加工をいっしょに楽しむような体験活動や観光を通じて、黒滝村に人をよびこむ取り組みも進められています。原木にふれたり、生木のまま加工したりできる生産地ならではの活動は、伝統産業の技術の伝承や地域経済の活性化、林業従事者の後継者不足の解消につながることが期待されています。

4 林業体験にむかう人々（2022年 奈良県黒滝村）

5 吉野杉の板を使って中学校の机を作る体験活動（2022年 奈良県奈良市）

環境問題・環境保全について考えられる教材

世界や日本の各地でみられる地球的課題・地域の課題である環境問題について、その現状や環境保全に取り組む人々の努力を随所に取り上げています。

地理 +α **持続可能な農業をめざして**

現代的な農業は、農薬や肥料を大量に使用します。そのため、生態系に影響が生じたり、農業にお金がかかり貧富の差が拡大したりします。そこで、生態系の維持や健康で平等な社会を目的とした持続可能な農業が求められるようになりました。

南アメリカの先住民の伝統的な農業は、さまざまな種類の植物を栽培することで、害虫の天敵を引きよせて食害を防いだり、ある植物が天候の不順で収穫できなくてもほかの植物の収穫ができるようにしたりしてきました。こ

P.115

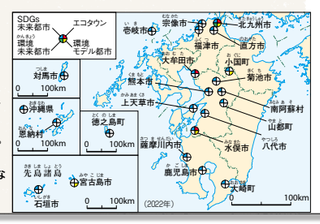
P.183

地理 +α **生まれ変わった水俣市**

水俣市では、1950~60年代にかけて、四大公害の一つである水俣病が発生しました。化学工場から海に流された排水に含まれるメチル水銀が魚にとりこまれ、その魚を日常的に食べていた人々が被害を受けました。その後、水俣湾では、環境を回復させるための取り組みが行われました。汚染された泥が取り除かれ、魚の安全性が確かめられて、再び漁業を行うことができるようになりました。

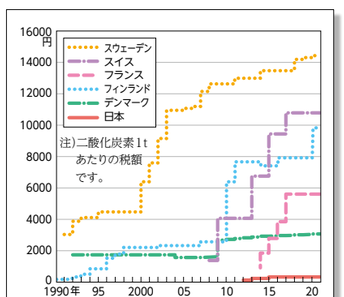
現在、水俣市では、公害によってそこなわれた地域社会の絆を取りもどす「もやい直し」を合い言葉に、ごみの分別回収の徹底、堆肥化をはかる事業などが進められています。水俣市は、公害を乗りこえた環境モデル都市として、全国から注目を集めています。

4 ごみの分別回収の取り組み（2016年 熊本県水俣市）



5 九州地方で持続可能な社会づくりに向けた先進的な取り組みを進めている地域（内閣府資料ほか）

P.73



7 ヨーロッパ各国と日本の主な環境に悪影響をおよぼす物質への課税
（「炭素税・国境調整措置を巡る最近の動向」）

人権、平和・命の尊さに関する教材

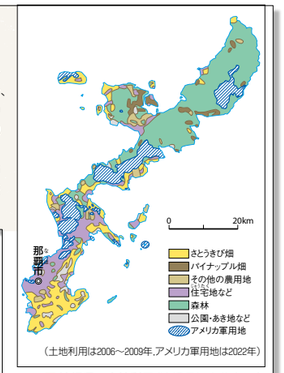
最新の事例に目配りしながら、人権や平和について自分自身が関わる課題として捉えられるように教材を多数設定しています。

P.181

地理 +α **沖縄の基地と人々の生活**

沖縄は、第二次世界大戦末期には激戦地となり、多くの犠牲者を出しました。そのなかには、たくさんの民間人も含まれていました。終戦後、1972年までアメリカ軍の軍政下におかれていました。日本とアメリカの取り決めにより、現在でも、沖縄県内にはたくさんのアメリカ軍基地があり、基地の面積は、日本全体の約7割を占めています。

基地の存在による安全保障上の利点や沖縄県への経済効果がある一方で、基地のある地域では、日常的な軍用機の騒音、墜落事故、基地の整備にともなう環境破壊などが、人々の生活の負担になっています。



（土地利用は2006~2009年,アメリカ軍用地は2022年）

6 沖縄県の土地利用（沖縄県知事公室・企画部資料） 沖縄県の約15%が基地になっています。資料活用 主な軍用地の大きさがどのくらいあるか、地図中のスケールを使ってはかりましょう。

P.85

4 フェアトレードの取り組みを行っている農園（2018年 コートジボワール）

地理 +α **平和記念都市・広島市**

広島市は、第二次世界大戦末期の1945年に原子爆弾が投下され、大きな被害を受けました。戦後は復興をとげ、平和記念都市となりました。原子爆弾の悲惨さを忘れないために保存されているのが、世界文化遺産に登録されている原爆ドームです。

被爆者の高齢化で被爆体験の語りつぎが難しくなるなかで、さまざまな取り組みが行われています。その一つが「ヒロシマ・アーカイブ」です。デジタル地図の技術を生かして、当時の地図や航空写真に人々の体験談や当時の写真などの資料を重ね合わせて見ることができます。

7 ヒロシマ・アーカイブ リンク

P.195

日本の領域について考えることができる教材

日本の領域についての学習では、北方領土・竹島の領土問題や尖閣諸島には領土問題が存在しないことを、わかりやすく詳しく説明するとともに、日本固有の領土であることを明記しました。

P.18-19

P.20-21